第6回アイランドシティ・未来フォーラム

平成23年12月3日(土)

【事務局(谷口)】 それでは、時間になりましたので、開会に先立ちまして事務局から ご連絡申し上げます。

まず、本日お配りしております資料のご確認をお願いいたします。資料は、会議次第、委員名簿、座席表、「アイランドシティ・未来フォーラムの提言の枠組みと論点整理による委員意見のまとめ」、これまでの委員の皆様からの主な意見の整理表、「アイランドシティ・未来フォーラム提言書(案)」及びA3判の全体構想の1枚物、「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012」の福岡市開催決定の記者発表資料、「野鳥公園の整備について」、「エコパックゾーンガイドブック」を配付しております。

なお、委員の皆様には、これまでの会議での説明資料等をファイルにとじ込んでおりま すので、必要に応じてご参照ください。

なお、本日、大庭委員、長沼委員はご欠席でございます。

次に、報道関係の皆様及び傍聴される皆様には、当フォーラムの円滑な議事進行にご理解とご協力をお願いいたします。カメラ等の撮影取材は、委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう十分ご配慮をお願いいたします。

また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡しております。傍聴席からの発言や拍手等はできません。注意事項を守られない場合は退席していただきますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより会議の進行は出口委員長にお願いいたします。

【出口委員長】 皆様こんにちは。それでは、ただいまから第6回アイランドシティ・ 未来フォーラムを開催いたします。

これまでの皆様のご協力によりまして、いよいよこのフォーラムも最終回を迎えることになりました。このたびは、委員の皆様にあらかじめ提言書の素案をお送りして、ご確認いただいておりますが、その修正等の作業も委員の方々にしていただき、ほんとうにありがとうございます。

本日は、最終的な提言書(案)をもとに協議を進めてまいりますが、特にアイランドシ ティの全体テーマ、財源の確保や投資、民間との連携、それから、具体的な方策について、 短期的、中長期的に実施可能と思われるものの分類などをしておりますので、そういった 点を中心に皆様からご意見などをいただいて進めてまいりたいと思います。

では、そういった点を踏まえて、フリーディスカッションに入る前に、事務局から2点 補足説明があるということです。まず、国際ユニヴァーサルデザイン会議についてのご説 明、それから、野鳥公園の整備についてのご説明をお願いしまして、その後、協議に入り たいと思っております。

では、事務局からご説明のほうよろしくお願いいたします。

【事務局(山口)】 福岡市総務企画局企画調整部の山口と申します。私から、第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012の福岡市開催について簡単にご報告をさせていただきます。

国際ユニヴァーサルデザイン協議会主催によります第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012が、来年、平成24年10月12日から14日までの3日間、福岡市で開催されることが決まりました。

この国際会議は、国内外のユニバーサルデザインの専門家が集い、シンポジウムや会議を通して意見交換や相互交流を行うと同時に、日本の企業や団体及び国の各省庁における UD (ユニバーサルデザイン)の取り組みを紹介する展示会も開催され、質の高いユニバーサルデザイン社会の実現を目指して実施される会議でございます。

第1回目が横浜市、2回目が京都市、3回目が浜松市で開催されており、来年の開催が 第4回目になります。福岡市博多区の福岡国際会議場と福岡国際センターを会場といたし まして、約30カ国、延べ1万2,000名の方々が参加される予定となっております。

主催者の基本計画案にありますとおり、今回の開催テーマといたしましては、3月の東日本大震災を受け、「安全・安心~ユニヴァーサルデザインの基本を考える~」が予定されております。

福岡市では、ユニバーサルデザインの考え方をまちづくりに生かすため、年齢、性別、障害のあるなしなどにかかわらず、すべての人が住みやすく、海外やほかの地域から訪れる人々にとっても過ごしやすい、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサルシティ福岡」の実現を目指しているところでありまして、この国際会議と同時期に、既存のさまざまな事業とも組み合わせて「ユニバーサルシティ福岡フェスティバル」といった関連イベントも行っていきたいと考えております。

この国際会議を契機といたしまして、福岡市全体にユニバーサルデザインを浸透させて

いくとともに、今後、アイランドシティにおきましてもユニバーサルデザインの考え方を そのまちづくりに生かしてまいります。

以上でございます。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。

時間も限られておりますので、続けて野鳥公園の整備についてご説明いただき、後ほど まとめてご質問、コメントなりありましたら、お願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

【港湾局(坊)】 福岡市港湾局環境対策課の坊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。野鳥公園の整備についてご説明いたします。

1ページをお願いいたします。

野鳥公園の話の前提といたしまして、埋立計画の変更の話からまずさせていただきます。 スライドにも映しておりますが、アイランドシティにつきましては、和白干潟や周辺の自然環境を保全するため、陸続きの埋立計画を島方式の埋め立てに変更したものでございまして、島方式にすることで、多くの野鳥が飛来しております80~クタールの和白干潟のすべてを残すとともに、周辺の海岸線を残しました。そうしまして、アイランドシティの周辺の海域と海岸域の全部で550~クタールの水辺空間を、人と自然の共生を目指す「エコパークゾーン」と位置づけております。

2ページをお願いいたします。

エコパークゾーンは豊かな自然環境を有しておりまして、全国でも有数の渡り鳥の飛来地となっております。平成22年度の調査では、エコパークゾーンを含みます博多湾の東部には、鳥の種類で125種類、羽数ではおよそ1万4,000羽の鳥が確認されている状況でございます。また、鳥以外にも、カニや貝、海辺の植物などが豊富でございまして、潮干狩りや自然観察の市民の方々でにぎわう場となっております。

3ページをお願いいたします。

博多湾に飛来する鳥の多くは渡り鳥でございます。これらの鳥はシベリアなど北の方から博多湾に渡ってまいりまして、さらに南の方へ渡っていくための中継地として博多湾を利用したり、種類によっては博多湾で冬を過ごしたりします。これらの長い距離を渡ってくる鳥たちが求めているものは餌と休息の場でございます。

4ページをお願いいたします。

博多湾に来た鳥たちは、1カ所にとどまるのではなく、餌や休息場を求めて、津屋崎や

加布里、あるいは内陸部のため池も含めまして、博多湾とその周辺の広い範囲を行き来しながら利用しているところでございます。鳥類の保全を考えていくためには、部分部分で見ていくのではなく、博多湾全体という広い視点で考えていくことが必要になってまいります。ちなみに、この図の中にございます和白と多々良の博多湾東部と今津干潟については、全国で172カ所ありますラムサール条約湿地の潜在候補地に選定されているところでございます。

5ページをお願いいたします。

さて、野鳥公園についてでございますが、野鳥公園はこの自然豊かなエコパークゾーンに面したアイランドシティの北東部に計画いたしておりまして、平成4年のアイランドシティ基本計画のときから、野鳥観察などを通して市民が気軽に身近な自然とふれ合うことができる親水緑地という形で位置づけております。

平成18年5月には、学識経験者や地元住民の方々、公募市民の方々など20名で構成する委員会で1年9カ月に及ぶ議論を経て、野鳥公園は周辺のエコパークゾーンとの一体的な整備が不可欠であるなど、野鳥公園の基本的なあり方について示した基本構想の提言をいただいたところでございます。この提言の内容につきましては、後ほどご説明させていただきます。

現在のアイランドシティ事業計画におきましては、提言を踏まえて、12へクタールの 野鳥公園でエコパークゾーンと一体的な整備を行い、人と自然の共生を象徴する施設とい う形で位置づけているところでございます。

6ページをお願いいたします。

野鳥公園基本構想の提言の内容になりますが、先ほどの550へクタールに及ぶエコパークゾーンとの一体的な整備が不可欠であることに加えまして、野鳥公園を整備する視点といたしまして、生物の生息空間の創出、自然環境を身近に感じられる空間の創出、野鳥に関する情報の発信などエコパークゾーンの中核機能の創出の3点が挙げられております。

また、野鳥公園と一体的に整備する周辺のエコパークゾーンにつきましても、豊かな生態系の保全・再生・創出、潤いのある生活環境の整備、多様な主体による連携と共働の三つの視点が挙げられているところでございます。

そのほかにも、自然の反応を見ながら段階的に整備を進めていく順応的管理の手法を取り入れること、あるいは、長期的な視点に立った整備を進めていくことが基本構想の中には掲げられているところでございます。

7ページをお願いいたします。

野鳥公園の予定地は現在も工事中であり、平成18年の提言においては野鳥公園の整備に取りかかれるようになるまでにはまだ時間がかかることから、それまでの間、エコパークゾーンの環境の質を向上させていくための組織として推進委員会と市民協議会の二つを立ち上げて、エコパークゾーンの環境づくりを進めておきなさいという提言になっております。

これを踏まえまして、学識経験者や市民で構成する「エコパークゾーン環境保全創造委員会」を立ち上げ、今後、エコパークゾーンで取り組むべき施策について検討していただくとともに、和白干潟で活動している市民団体等で構成する「和白干潟保全のつどい」を立ち上げ、毎月情報交換を行いながら、環境保全活動の企画や実施をしているところでございます。

「エコパークゾーン環境保全創造委員会」につきましては、平成22年3月に「エコパークゾーン環境保全創造計画」の提案をもって委員会自身は終了しており、現在は、提案 していただいた計画に沿いまして環境保全創造施策を実施しているところでございます。

8ページをお願いします。

それでは、エコパークゾーンで実施しております環境保全創造施策の事例についていく つかご紹介をさせていただきます。

エコパークゾーンの御島海域では、汚れた海底にきれいな砂をまく覆砂と、海底に水の 交換をよくするための溝を掘る作澪を行っております。その結果、写真でお示ししており ますように、生物の増加等が見られているところでございます。

9ページをお願いいたします。

また、小魚の隠れ家ですとか産卵場になり、「海のゆりかご」とも呼ばれているアマモという海に生える植物を植えております。御島では、現在、植えた面積の10倍以上に拡大しております。このアマモ場づくりにつきましては、御島での成果も踏まえ、今年度から和白海域でも小学校などと連携しながら展開を始めたところでございます。

10ページをお願いいたします。

さらに、アイランドシティの工事現場内にやってきた鳥の保全策についても、専門家の 意見を聞きながら検討いたしました。多くの鳥は和白干潟に戻っていくだろうということ でございますが、水に浮かんで休むことができない鳥であるシギ・チドリ類について、休 息場を野鳥公園予定地前面の海域に設置をしてはどうかというご意見をいただきまして、 設置を行い、実際に300羽以上の鳥が利用している状況を確認しているところでございます。

11ページをお願いいたします。

また、本日皆様のお手元にこの「エコパークゾーンガイドブック」をお配りしております。ソフト施策の一環として、エコパークゾーンで実施しております事業などを紹介するこのようなガイドブックを作成し、環境啓発事業などの折に配布しているところでございます。

12ページをお願いいたします。

野鳥公園の基本構想の中で示されたもう一つの組織である市民協議会でございますが、 「和白干潟保全のつどい」という名前でございまして、アオサの回収や、バードウオッチングなどの環境保全活動を市民団体の方々と共働で企画・実施しているところでございます。

13ページをお願いいたします。

エコパークゾーンからは少し離れてまいりますが、エコパークゾーンの近く、多々良川の河口部のところになります。こういった場所でも鳥の休息場、餌場の整備を行っております。また、河口干潟のところでは、県とNPOの連携で絶滅危惧種であるクロツラヘラサギの休息場の設置も行われている状況でございます。

14ページをお願いいたします。

さて、話を野鳥公園に戻したいと思います。この写真は、今までご説明いたしました野鳥公園周辺の環境づくりについて、位置図とともに野鳥公園予定地の現在の状況をお示ししているものでございます。右側の写真にございますように、現在は地盤改良という、土地を締め固めるための工事が行われているところでございます。

最後の15ページをお願いいたします。

これまでの話を総括させていただきます。野鳥公園につきましては、平成18年、基本構想の提言を受けておりますが、予定地が工事中でございますので、まずエコパークゾーンの環境づくりから現在取り組んでいるところでございます。具体的な時期についてはまだ決まっておりませんが、今後、埋立地の工事の進捗を見ながら、適切なタイミングで基本計画等の検討の段階に取りかかっていくという形で考えているところでございます。

以上で野鳥公園の整備についてのご説明を終わらせていただきます。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。

ただいま 2 点ご説明ございましたが、どちらからでも結構ですので、何かご質問あるいはコメント等がございましたらお願いします。二つとも福岡市のこれからの取り組みについてのお話でもありました。野鳥公園の方は、これまでの取り組みとこれからの取り組みの考え方をご説明いただきました。

本日、提言書の案をご提示しており、皆様には既に素案を配付してご確認いただいたと思いますが、ユニバーサルデザインの関係は、8ページ目の未来像VIIに挙げてございます。以前のこの委員会でも、様々なタイプの世帯の方々が住めるようなまちにするべきではないかというお話、あるいは、これから高齢社会に向かって人に優しいまちづくりをしていくべきではないかというお話がございまして、ここに「様々な人が集い、優しさと活気に包まれたユニバーサルデザインのモデルとなるまち」という未来像を7番目の中に掲げてございます。

今回、こういった非常に大きなイベントが福岡に誘致されることを契機に、是非、アイランドシティをモデルにするユニバーサルデザインの取り組みを進めていただきたいと思っております。そういう意味も込めて未来像の中に掲げてございます。

それから、野鳥公園に関しましては、先日、私、福岡大学の先生が主催された野鳥公園に関してのワークショップに都市デザインの専門家として呼ばれまして、参加してきました。いろいろ勉強させていただきました。特にクロツラヘラサギなど、人間の観点ではなく鳥の観点から見た公園づくりの考え方の重要性というものを勉強させていただきました。

この委員会の中でも、村田委員か森委員からだったと思いますが、この野鳥公園を是非早期に実現していただきたいというご意見をいただきましたので、この提言書の中に、そういったご意見を踏まえ、短期的な方策として野鳥公園の早期着手を進めていただくようにうたってございます。

よろしいでしょうか。それでは、ご質問がないようでしたら、次に進めさせていただき たいと思います。

続きまして、フリーディスカッションに入りたいと思います。先ほどご説明いたしましたように、提言書(案)のご確認をいただくに当たり、私の方から内容を簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

委員の皆様には、あらかじめお配りしました素案の修正のご意見などもいただきました。 それをできる限り反映した形で本日ご提示しております。あらかじめお配りした案からの 修正点も含めてご確認いただく意味で、私の方から簡単にかいつまんでご説明したいと思 います。なお、修正した箇所に関しましては、下線を引いて明記するようにしておりますのでご確認ください。

「はじめに」のところですが、アイランドシティの希望ある「未来」を創る基本的考え 方ということで、1ページ目から2ページ目にかけて4点を整理しております。

次世代の資産を創り、活かす「好循環」への転換ということで、図を含めて、まず考え 方を打ち出しております。 2点目が好循環を生み出す「エンジン」としてアイランドシティを位置づけています。 3点目がアイランドシティの「強み」を活かす。それから、 4点目が「民の力」を積極的に引き出すような施策を進めていただきたいということをうたってございます。

続いて3ページ目、ここが前回の委員会から新たに加わったページです。アイランドシティの全体テーマとして「洗練されたアジア」を掲げております。この洗練されたアジアという言葉は、以前、伊東先生がご提唱になったお言葉を使わせていただいております。必要があれば後で伊東先生から補足をいただきたいと思います。

前回の委員会のときには、未来像の中の一部にこの言葉を入れていましたが、やや次元が違うかなと。未来像は、生活者の観点、あるいは事業者の観点から見た未来像を具体的に列挙してございますので、この洗練されたアジアというのは、むしろ都市づくりの哲学、理念につながる「テーマ」として掲げるべきと思いまして、全体テーマとしております。

また、福岡市の髙島市長は、「アジアのリーダー都市」を政策の柱に掲げていらっしゃいます。特に、アジアの経済力、活力を取り込んで集客力を向上させるような施策を次々と打たれておりますが、アジアの真のリーダー都市となるためには、人間でいうと尊敬される人でなければリーダーになれませんので、ここに滞在してみたい、住んでみたいというような魅力を持った都市にならないといけないと思います。あるいは、そういうモデルを提示しないといけないと思います。そういった魅力あるアジアのモデルになっていただきたいという意味を込めて、洗練されたアジアをテーマに掲げております。

こちらに大きくその要点を5点にまとめております。アジアというと、どうしても混沌 としたイメージがありますが、その混沌としたアジアから洗練されたアジアへ、世界的に 求められている都市像を是非この福岡で実現していただきたいということです。

2点目が、その先進都市を実現し得る数少ないモデルとして何をすべきか。これは市長さんを初め行政の方にも少し考えていただきたいと思いまして、投げかけの言葉にしております。海老井委員からは、むしろ「モデルを目指す」と言い切りにしたほうがよろしい

のではないかというご意見もいただきましたが、ここは投げかけの形のままにしております。

3点目が、アジア文化圏・経済圏と融合した未来へのメッセージ都市であるということですね。そういう意味を込めた言葉であるということです。

4点目が、アイランドシティは、先ほど野鳥公園のところで説明がありましたけれども、 島形式の埋め立て方式をとっております。だからこそ自然と人工が融合するアジアの自然 観の下、持続的な生活をエンジョイするような都市にしていただきたいという点。

5点目が、知的な洗練さと先端性を兼備し、先導的テーマに即した都市デザインを進めていただきたいということです。この言葉に関して、事前に委員の方からご指摘いただきましたが、そのまま「知的な洗練さ」という言葉を使わせていただいております。洗練さと先端性を兼備した都市のイメージをここで打ち出しております。

そのテーマに即しながら、市民や来訪者からどう見られているかを常に意識しなければいけません、とやや強い言葉を中に入れておりますが、これは決して住民の方々にある種プレッシャーをかけるような意味ではございません。むしろ、私としては、行政あるいは事業者といったつくり手の側にそういうことを意識していただきたいと。この理念が、道路の舗装から、並木から、建物からすべて細部にわたって首尾一貫して行き届かない限り、アジアのモデルにはなれません。行政の現場の一人一人の方までその意識が浸透していかないといけないという意味で、このような言い方にさせていただいておりますので、行政の皆さんでその辺の趣旨を是非ご理解いただきたいと思います。

こうした趣旨を踏まえ、都市づくりの理念の意味も含めまして、全体テーマを「洗練されたアジア」といたしました。

続いて、4ページ目が全体の構成です。未来像Iの言い方を若干変えておりまして、アジアの成長・活力を取り込み、アジア・世界とつながる拠点としております。以前は、ダイナミズムという言葉を使っていましたが、ややわかりにくいのではないかと思いまして変更しています。みなとも含めた拠点ということです。

5ページが、その未来像 I でございます。それぞれの未来像に関連するフォーラムの委員の方の意見と思いを下に枠つきで整理してございます。その中で 1 点ご指摘ありました。メディア・デジタルコンテンツセンターという言葉を入れておりましたが、以前、伊東先生から、コンベンション型――複合型であるという趣旨のご発言があり、その点をご指摘いただきましたので加筆しております。

6ページは、未来像Ⅱとして、知的活動が集積し、国際的に活躍する人材育成の場という未来像を掲げておりますが、ここでも最初の星印で、各種教育機関や国際的な教育機関に加え、更に具体的なイメージを打ち出したほうがいいのではないかということで、文化交流施設などが立地しているという文言を加筆させていただきました。

それから、サイバー大学についてのご発言をいただいておりましたので、フォーラム委員の意見と思いの枠の中に、サイバー大学で外国人でも日本の資格を取得できる講座を開設してはどうかというご意見を書き込ませていただきました。

未来像Ⅲが、おしゃれで文化的なライフスタイルを創り出す美しいまちなみ景観です。 まさにこれは、洗練されたアジアを体現するまちをつくっていただきたいという思いを込めた未来像です。その中の3点目で、国際色豊かで文化的な活動が幅広く行われ、高感度な文化を発信するまちとしていますが、単なる文化ではなく、アジアの方々の心に響くような高感度な文化を発信するまちというご意見をいただき、加筆させていただいております。

それから、7ページ目ですが、未来像IVとして便利な公共交通システムで移動がしやすく、安全で安心して暮らせる生活環境。そこで、交通基盤が整備される未来都市をイメージさせる、あるいは目指すのであれば、近未来型の交通基盤が整備されるということを入れてはどうかとご指摘いただきました。ご指摘を踏まえて、加筆させていただいております。近未来型の交通基盤が整備され、快適な交通アクセスが確保されているまちとしております。

また、委員の方の意見と思いとして、警察や公安関係の施設を列挙する形にしていましたが、あまり細々したものを書いてもどうかということと、交番など警察施設や消防署があると心強いというご意見も何回か住民の委員の方から意見を出していただきましたので、整理して、交番など警察施設や消防署があると心強いという意見にまとめせていただいています。

7ページの下、未来像V、高度な医療に支えられスポーツやレクリエーションを楽しんで暮らす「健康未来都市」です。これまで福岡市も、健康未来都市構想をつくり、それに基づいて病院の整備なども含めたまちづくりを進めているところではありますが、それをさらに強化させていただきたいという意味を込めて、この未来像Vをつけております。

その中の4点目ですが、以前サイクリングの話が出たかと思います。今日はご欠席ですが、長沼委員からツール・ド・フクオカのお話などを出していただきました。ここの一つ

のアドバンテージは、サイクリングやジョギングロードを広域的に整備することができる ことです。そういった、広域的に整備され、健康づくりやスポーツを身近に楽しめるまち ということを新たに加えてございます。

8ページに移りまして、未来像VIは、博多湾の豊かな自然との共生や創エネ・省エネを推進する「スマートコミュニティ」です。これは前回、滝本委員からプレゼンテーションをしていただきまして、国の施策の中で現在、スマートコミュニティが進められているということでした。是非その先進的なモデルにアイランドシティにもなっていただきたいという意味を込めまして、スマートコミュニティを括弧づきにして未来像として掲げております。

その最後の項目ですが、環境共生型の都市をつくっていくということですので、それが 産業にまで展開されていくようなイメージが必要でないかということで、エコロジー産業 が誘致され、エコロジービジネスが育っていくまちという点を加えさせていただきました。

それから、8ページの下段、最後、未来像WIは、さまざまな人が集い、地域の主体的な活動が盛んで活気に溢れた街です。最初、幅広い世代と多様な世帯がともに生活すると掲げていましたが、多様な世帯というのはわかりにくいのではないのかというご指摘をいただきました。要はファミリー、単身者、高齢者といった様々なタイプの世帯が住まうという意味ですので、様々なタイプと修正させていただきました。

また、括弧書きでその中に魅力的なまちという言葉を入れていましたが、文化的なにぎ わいがある魅力のあるまちという特色を出させていただいたのと、未来像Ⅲと関連する部 分でもありますので、そのような文言を加筆して、一文加えさせていただきました。

続きまして、9ページ目では、そうした未来像の実現に向けた方針を整理してございます。

方針は4点ございます。まず、方針 I は「2 1世紀の展望と福岡の将来を見据えたアイランドシティの「位置づけ」を明確にする」です。今回の震災、津波後、日本の国土計画あるいは社会的な情勢も大きく変わっていくことが予想されますが、そういった点を踏まえ、今後の社会を展望し、また、福岡の将来を見据えて、アイランドシティの位置づけをきちんと明確にして、ビジョンをはっきり持つ。その下で、先行的な投資を進めて民間事業などを誘導、誘致していくことをこの方針に掲げてございます。

特にご確認いただきたいのは、最後のひし形の項目のところです。アイランドシティの 未来像の実現に当たっては、都市戦略上、まちづくりの好循環をもたらすために極めて重 要である財源を生み出すためにも、「未来像」を福岡の発展に明確に位置づけた上で、厳しい財政事情の中ではあるが、市民の税金(一般会計)も積極的に活用して、真に効果的な先行投資を行うということをこの方針の文書の中に掲げてございます。この点ご確認いただきたいと思います。

これまでも皆様から、様々な核となる施設の整備ですとか、バスあるいはLRTといった公共交通の整備を先行的に進めるべきといったご意見をいただきました。それらを進めていくためには、将来の財源を生み出すという意味からアイランドシティをきちんと位置づけた上で、厳しい財政事情の中ではありますが、市民の税金を積極的に活用して先行投資を行ってくださいということをここに整理してございます。後ほどまたこれについてはご意見があればお伺いしたいと思います。

10ページ目の方針Ⅱは、「個性的な魅力をかたちづくる「先導的テーマ」に基づき街の 骨格を形成する」です。いわゆる都市計画の分野では機能や用途のゾーニングをまずつく っていくことになるわけですが、そういったゾーニングありきで整備を進めるのではなく、 まずまちづくりのテーマを設定し、そのテーマに沿った土地利用や施設の整備計画を立案 した上で、みなとづくり、まちづくりを進めるべきだということを掲げてございます。

ここで1点加筆いたしましたのは、二つ目の課題ですけれども、アイランドシティの特性を活かした産業の集積についてということで、先ほど未来像のところでも若干加筆いたしましたが、エコロジー産業の立地も進めるべきだということを一つの課題としてここに掲げてございます。

それから、1 1ページ目に移ります。方針Ⅲは、「港湾・物流機能が核となり都市活力を 生み出す「複合用途」で街区・地区を構成する」です。先ほどの、テーマの設定に基づき 骨格を形成することと関連してきますが、単一機能を単に寄せ集めて都市をつくるのでは なく、用途や機能が複合することによって相乗効果を生み出し、まちの活力を生み出して いくという方針のもとで街区・地区を構成する考え方で進めていただきたいということで ございます。

12ページ、方針IVは、「住みたくなる都市のブランド化を目指し、ICならではの環境価値を持つ街を育てる」です。ここでは特に、住民の委員の方々からネーミングのお話がございました。「人工島」という呼び方は止めていただきたいと繰り返しご発言いただきました。それに関連する方針といたしまして、最後のところに、まちのコンセプトやテーマに基づくまちづくりの一環として、まちの名称の定着、イメージアップや情報発信のため

の「通り」「街角」「公園」などの通称づくりを行うということを掲げてございます。

加筆した点といたしまして、その一つ上ですけれども、行政だけではなく多様な主体によりイベントを実施し、さまざまな種類のメディアにより活発に情報発信をしていくということを掲げております。これは伊東先生からメディアクロッシングというキーワードをいただいたのですが、恐らくこういう意味かと思いまして加筆しました。

【伊東委員】 はい、そうです。

【出口委員長】 後でまた必要でしたら補足してください。

行政だけでなく、民間あるいは地元のNPO、地元住民の団体の方々など多様な主体がイベントを実施し、単にそれを実施するだけではなくて、それを情報発信していくんだと。そのときに、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなど、いろいろなメディアを活用して多角的に活発に情報発信していくような活動をしてくださいという意味で加筆させていただきました。

続いて13ページに移りますが、以降ではこれらの方針に基づく戦略と方策を整理して おります。

戦略 I は、企業等のニーズに応じた土地利用促進策の投入により民間開発を誘導するということです。やはり民間との連携がアイランドシティのまちづくり、みなとづくりには欠かせません。あるいは民間事業を積極的にここに投じていただかないとならないわけです。その際に、企業のニーズに応じた土地利用促進策を効果的に投入する方法、考え方、あるいは方策をここにまとめてございます。

たしか前回の委員会で小俣委員からも、この具体的な方策につきまして、戦略であれば、 時間軸というか、これをいつまでに実施していくのかもきちんと考えていく必要があるの ではないかとのご指摘をいただきました。

その後、私は行政の方にさまざまヒアリングさせていただきまして、実際に実現可能性の高いもの、効果があるものを短期的と中長期的とに仕分けいたしまして、具体的な方策の区分けをしております。また、黒い星印のものは、戦略として民間事業者を呼び込む上で、特に先行投資をしていく効果があり、重要だと考えられるものでございます。このような表記によって、この方策の中にプライオリティーをつけたということでございます。この点も本日ご確認をいただきたいと思います。

特に戦略 I に関しましては、具体的な方策として特に効果があり重要だというものを短期的なところに三つ掲げておりますが、一つがアイランドシティの強みを活かすための立

地交付金・補助金の拡充です。この辺は平山委員からも何度かご発言いただいております。

それから、事業用の定期借地を導入するということですね。これまで定期借地制度は導入されてきませんでした。それを新たに導入すると。民間の方々がここに事業を展開していく上で、土地代、あるいは、先行投資の負担が重いというご意見もございましたので、そういったものを軽減させるために、この二つの施策が特に重要ということで掲げております。

3点目が5工区全体を対象にした一括公募等の総合的開発方式の導入です。これは前回の委員会で私から発言させていただきましたが、これまではアイランドシティの事業開発方式、公募方式は、街区単位あるいは街区を幾つか連ねたものを単位としております。そのため、民間側からしてみると、首尾一貫した考え方で事業が展開しにくいという課題もございましたので、5工区全体を対象にした一括公募の総合的開発方式を研究され、導入していただきたいということでございます。これによって、かなり早い時期から民間のノウハウなどを活用した土地開発が可能になっていくのではないかと思っております。

あとは、一つ一つ読み上げる時間がありませんので、白い星印のところもご確認いただきたいと思います。

続きまして14ページ、戦略Ⅱ、効果的な公共投資により都市の建設を積極的に先導するということです。この中で、まず二つ目の文言を修正しました。内容的にはそれほど変わっておりません。ちょっと言い回しを変えているだけですが、アイランドシティの位置づけに基づき、その強みを活かしたとしております。

あと、文化・スポーツ交流施設、交流の拠点となる新しいタイプの核となる施設を整備 するということです。

大規模な開発エリアでは、既存の鉄道やバス路線とネットワークされた交通網整備が必要であり、文化や環境をテーマにまちづくりを進める観点からも、従来型のバスだけではなく、新たな公共交通を導入するということをここに明記させていただきました。

具体的な方策につきましては、戦略として特に効果があり重要というものを4点掲げて おります。

1点目が、環境・エネルギー、健康・スポーツ・文化関連の核となる公共施設(スポーツ施設等)の整備を進めるということです。

2点目が、メディア・デジタルコンテンツ等の国際情報受発信、制作、流通機能を持った新しい核となる施設の整備です。これまでアイランドシティには、中央公園やぐりんぐ

りんといった施設が整備されましたけれども、まちづくりの核となる、あるいは集客の核となるような施設としては不十分であるという認識のもと、核となる施設が必要だとしました。それを効果的な公共投資によって整備していって、まちづくりに弾みをつける、あるいは核をつくっていくんだと。この核施設に関しましては、これまでもこのフォーラムで委員の方々からさまざまなご意見をいただきましたので、それらを整理する形でこの二つに要約してございます。

3点目が、幹線道路及び自動車専用道路(都市高速道路)の延伸の早期整備です。都市 高速道路をアイランドシティまで延伸するという構想は既に市でお持ちだということです が、それを早期に整備していただきたいということです。

4点目が、新たな公共交通(BRT・LRT・電気バス等)の導入です。地元の住民の委員の方からもご意見がございましたし、今日ご欠席の大庭委員からも、かなり強くご指摘をいただいており、また、ほかの委員の方々からもご指摘をいただいておりましたが、新たな公共交通を導入して交通利便性を高めていく必要がある、その上で民間の投資を呼び込んでいく必要があるということです。

以上の4点を戦略として特に効果があり重要な短期的な方策ということで強調してございます。それから、先ほどの繰り返しになりますが、事務局から説明がありました野鳥公園の早期着手を短期的な施策の中に掲げてございます。あとは内容を読み上げませんが、ご確認ください。

それから、15ページに簡単なポンチ絵を入れております。この具体的な方策のイメージを図にしたものです。今までアイランドシティは、核となる施設が中央公園以外整備されてきませんでしたので、効果的な先行投資によって、メディア関連の核施設、あるいはスポーツ・文化関連の各施設をまちづくりエリアに整備し、それがこれから整備されるであろう商業等の各施設とコアをつくり、そこに都心と直結するようなBRT等の公共交通が入ってきて、核をつくっていくイメージ図です。

みなとづくりのほうでは、後ほど出てきますけれども、青果市場を整備する構想をお持ちですが、単に青果市場とするのではなくて、それをフードパークといったような複合施設にしていただいて、それがまちづくりエリアと連携した帯状の核をつくっていくようなものにして、みなとづくりエリアへ人を呼び込んでいくようなイメージで整理いたしました。写真の列挙だけですとなかなか共通したイメージが持てないかと思いましたので、私のほうで簡単なポンチ絵を入れさせていただきました。

それから、16ページは、戦略Ⅲ、みなとづくりとまちづくりの融合とプロジェクト相互の相乗効果を図るということです。ここでは、フードセンター等といった、ちょっとわかりにくい言葉がありましたので、グルメタウンという言葉で統一したのと、あとは文言の整理をしております。

それから、ここではまず短期的な方策は2点あります。学校の授業等として港の見学会などを行うこと。みなとづくりエリアを単に港湾施設の機能に特化させるように位置づけるのではなく、学習の場としていこうと。港を通じてさまざまな社会的なことが勉強できるわけで、そういった見学会などを積極的に行う。あるいは、2点目として、港の見学エリアや情報発信拠点などを設けることで、みなとづくりとまちづくりとを連携させる施策を短期的な方策として位置づけております。

それから、長期的な施策になりますけれども、青果市場の整備がやや時間がかかりそうだということなので、長期的施策・方策にしておりますが、戦略として特に効果があり重要というものとして、青果市場を中心とした場外市場、マルシェ、グルメタウンを併設したフードパークを設置することを掲げてございます。

ほかはご確認いただきたいと思います。

それから、17ページが最後の戦略IV、公・民・学連携拠点の設置と組織的活動により生き生きした街をデザインするということです。以前にも平山委員から再三ご発言いただきましたが、千葉県柏市の柏の葉で、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)というセンターをつくり、アイランドシティと同じように長時間かけてのまちづくりを進めております。実は私、そこのセンター長を務めておりまして、前回の委員会でも、簡単にそこの取り組みをご説明させていただきました。そういったものがアイランドシティでも必要であるという点、それからあと、住民の代表の委員の方々からもさまざま、まちのブランド化、あるいは生活環境の整備についてのご発言をいただきましたので、それを戦略と方策としてまとめてございます。

ここで修正いたしましたのは、3番目のひし形のところで、エリアマネジメントを進めていく必要があることを滝本委員からも前回ご指摘いただきましたので、エリアマネジメントという言葉を入れております。

ただ、これまでのエリアマネジメントは、福岡市でも天神地区や博多駅地区で協議会をつくられて進めていますけれども、清掃活動、防犯活動、あるいはイベントの企画、実施などが主ということでした。ここはさらに、住宅地を中心としたエリアマネジメントとい

うことで、高次元な「文化的な活動」という言葉を入れるべきではないかというご意見を いただきました。文化的な活動や洗練された街のデザイン演出にかかわる地域の自主的な 活動をソフト・ハード両面で支援する文化的なエリアマネジメントを推進することに新し さ、アイランドシティらしさが出てくるのではないかということで、そういった点を強化、 加筆しております。

そして、具体的な方策としてすべて短期的にと掲げておりまして、もうすぐにでもやっていただきたいことということで整理しております。特に効果があり重要なこととして、情報発信と地域主体のまちづくり拠点という意味で、「地域主体」という言葉をここで加筆いたしました。まちづくり拠点、アーバンデザインセンターの設置と組織化を特に効果があり重要なものとして掲げてございます。

それから、地域住民が参画したまちづくりとしての道路、公園等のネーミング、イベント型のソフトコンテンツや地域活動による地域の活性化、地元大学と連携した社会実験の実施、地域団体の設立・活動支援といったものを具体的な方策として掲げております。これらは短期的にも実施可能と思っておりますので、ぜひ速やかに予算化して進めていただきたいと思っております。

また、左下のほうでは公・民・学連携の図を入れております。これは、やや聞きなれない言葉と思いますが、柏の葉では、産・官・学ではなく、公・民・学という言葉を使っております。産・官・学というのは、どちらかというと短期的なプロジェクトを実施していく上での取り組みに使われる言葉でして、まちづくりは非常に息の長い取り組みですので。また、そのときに、産・官・学の「官」は行政だけを指しますが、「公」は地元のNPOなども含む概念です。いわゆる新しい公共という概念も含まれると思います。

それから、「民」についても、産・官・学の「産」には企業しか入っていませんで、そこに市民という概念はありませんのに対して、「民」は、市民、住民と、それから企業を含む概念として考えております。

それから、「学」についても、産・官・学の場合の「学」は、大学などを学識経験者あるいは研究機関としてしか捉えられておりません。そういう形で、私はこういった委員長をさせていただいているわけですが、学識経験者の意味合いが産・官・学の場合は強いと思います。実は柏の葉では、うちの研究室の学生がまちづくり活動の実行委員会に入り、実際、住民の方と一緒に企画や実施をしております。要するに、この「学」は学生も含めた概念です。その活動の中で学生も育っていくといった相乗効果がございます。単なる学識

経験者あるいは研究機関と捉えるのではなく、もっと幅広い意味で、知的な創造、活力を、 その中に息吹を吹き込むという大学教育研究機関等という意味で学という概念を打ち出し ています。

そういった点が「公・民・学」の意味です。その拠点――UDCFになるかUDCIになるか分かりませんが、そういったものを是非とも設置していただきたい、それをもとにさまざまな活動を展開していき、エリアマネジメントのモデルになっていただきたいということがこのページの戦略の趣旨でございます。

それから最後、18ページ、19ページに、「おわりに〜福岡の未来を先導するアイランドシティへ向けて〜」ということで文章を整理し、総括しております。ここについても、いろいろご意見をいただきましたので、加筆修正しております。

18ページの一文、「その一方で、まちの付加価値を高めて投資意欲を喚起するためには、 民間開発を誘導する効果的な公共投資も積極的に行う必要があります」ということで、積極的に行うと、ちょっと強い言い回しに加筆修正をしております。

それから19ページでは、先ほど野鳥公園の話がありましたが、文章の冒頭、そういった野鳥公園の整備も意識して、「その際には」、要するに、まちづくり、みなとづくり等を進め、民間の立地促進策を進めていく際にはということですが、「和白干潟を残し、周辺の自然環境を保全するため、陸続きの埋め立て計画を島方式の計画に変更した経緯も踏まえ、自然環境の保全と再生にも最大限の配慮をしながら事業を進めるとともに、投資効果を定期的に検証し、課題がある場合は適宜改善していく仕組みの導入も併せて必要であることは言うまでもありません」と念を押してございます。

それから、生活利便の向上を図ることを居住者の観点から見ているという意味も重要ですので、改めてここで、「生活利便の向上を図ることは」ということで一文を入れて強調させていただいております。

以上、ちょっと駆け足になりましたが、あらかじめお配りした素案からの修正点のご確認を含めまして、私のほうから説明をさせていただきました。

あと、20ページ以降は、添付している参考資料でございます。

最後の25ページには、第4回目のこのフォーラムで、事務局から説明がありました参 考資料、埋立地からの税収等、アイランドシティは現状の税収ですけど、抜粋して入れさ せていただいております。

それから、23ページと24ページは、前回のフォーラムで土屋委員からこれまでのア

イランドシティの位置づけをきちんと資料として整理しておくべきではないかというご意 見がありましたので、ちょっと簡単ではあるのですが、事務局のほうで整理したものを掲 載させていただきましたので、ご確認ください。

私のほうからの説明は以上でございます。

本日、既に皆様にはご一読いただいておりますので、確認ということになるかと思いますが、もし必要であれば、特にご意見などあれば出していただきたい点としまして4点ございます。

1点目は、新たに加えたアイランドシティの全体テーマ、「洗練されたアジア」に関してです。

2点目は、財源確保についてですが、方針1に財源確保の考え方を明記してございます。 こういった財源確保、あるいは先行投資の考え方についてご意見があればお願いしたいと 思います。

3点目は、民間との連携についてです。特に、民間は単に、そこに住宅施設等をつくる 事業者としてだけではなく、もっとさまざまな場面で、特に今日お越しになっている民間 からの委員の方々にご協力いただきながら、民間と連携しながら進めていく仕組みや体制 をつくっていけないかと思っております。おそらく、戦略IVにうたわれています公・民・ 学連携の拠点がそういった場になっていくのではないかと思いますが、その民間との連携 について、何か具体的なアイデアなどありましたら、補足的にご意見いただければと思っ ております。

それから、4点目は、戦略 $I \sim IV$ に、具体的な方策を短期的、中長期的というように仕分けをいたしました。更に、戦略で特に効果があり重要なことをプライオリティーを上げる意味で強調しております。こういった点についてもご確認いただき、もしご意見などありましたらお願いしたいと思います。

私からは以上でございます。あと1時間ほどございますので、よろしければ、ご意見、 コメントなどいただければと思います。いかがでしょう。

村田委員、どうぞ。

【村田委員】 この未来フォーラムが始まったときは、ふわふわしたような夢ばかりの話で、あと財政の話を聞くとすごくネガティブな気持ちと、こちらも一喜一憂していたんですけれど、出口委員長から、最終的には現実的かつわくわくするようなお話がまとまってきたことに関し、住民を代表して非常に御礼申し上げます。

僕のほうから2点です。ちょっと細かい話になるんですけれど、8ページの上のほうの、フォーラム委員の意見等も入れ、済みません、僕はちょっと素案を見たときに見逃していたんですけれど、「ととろの森のような里山、ビオトープ、農園、古民家があるといい」という形でありますが、ととろの森と僕が発言したのは、結局、全体のイメージというか、テーマというか、そういうふうな話でして。もともと宮崎駿さんと連携する話があったけど、ちょっと僕は事務方の関係はわからないんですけど、オジャンになったことが実はあって、そこら辺を復活させるのが効果対費用じゃないですけれど、効果も高いでしょうし、費用的にもそこまでかからないような方策なので、ここら辺を進めたらどうかということでした。それと、最後のほう、住民がみずから道路の名前をというところで、ちょっと何か分かれた話にはなってきていますが、もう一回ぐらい、そういうテーマの復活はできるのかなと思って、事務局側にちょっと尋ねてみたいんですけど、いかがでしょうか。

【出口委員長】 わかりました。もう1点ありますよね。

【村田委員】 もう1点に関しては、民間との連携ということで、今、出口委員長お話しされたんですけれど、公・民・学とういことで、「民」には我々地域住民も入ってこられるのかなと思いつつ、実際、今後、じゃあ公共投資で何をつくるのか、どの場所、どのブロックに何をつくるのかという細かい話が出てきたとき、その辺の大きな枠組みをつくるための建設会議も含めた公・民・学なのか。それとも、市からある程度、デザインがぼんと振られて、その後の公・民・学なのか。そこら辺で意味合いが大分違ってくると思うんですよね。ですから、ある程度、何をつくって、どのブロックにといった大枠の話まで、この公・民・学が絡めるといいなという思いがいたしました。

【出口委員長】 ありがとうございます。できるだけ早い時期、構想段階から、民が参画できるような体制で公・民・学連携の拠点をつくっていただきたいということでございます。その点は補足意見としていただきました。議事録には残させていただきますが、市でもしお考えや、戦略Ⅳを受けてのイメージ等ございましたら、ご発言いただきたいと思います。 2点ございましたけれども、いかがでしょうか。

【副市長(山崎)】 ととろの森というお話がございました。ご案内かと思いますけれども、過去、平成14年か15年だったと思いますが、宮崎駿氏とジョイントするというプロジェクトを実際に福岡市として手がけていたことは事実でございますけれども、いろいろな経緯があってとんざいたしました。私は当時、直接の担当ではありませんでしたが、宮崎駿氏からファクスが福岡市役所に送りつけられてきたのを目の当たりにしておった人

間の一人でございますけれども、彼の言い分は、人工島というのは埋立地であって、自然 を破壊するものである、そのようなものに自分が直接、間接にかかわることは適切とは考 えないというものであったと承知しております。

一方、本日のご提言の最終の19ページに、先ほど出口委員長からもお話がありましたように、一番上のほうに書いてございますが、そもそもこのアイランドシティ事業といいますのは、和白干潟を残して、周辺の自然環境を保全するために島形式をとるということからスタートしたものでございまして、自然を保全する、そしてさらに再生していくというコンセプトで事業を推進するんだと私ども福岡市は考えてございますし、この考え方は事業発足当初より一貫して変わっておりませんで、今回、皆様方からもこのようなご提言をいただいたことに感謝しておるところでございます。

なお、里山に関しましては、今、照葉のまちということで、すっかり地名的にもなじん だ形で推進をしておりますので、これはこれでしっかりと推進をしていくというのが基本 的な考え方であろうかと思います。

それから、公共施設をこれから整備していく上で、具体的にどういうものを整備していくかに関しましても、市議会を含めて、いろいろな方々のご意見を聞いて、まず、どこに何をという議論をしていく必要があろうかと思いますし、それが決まった段階で、当然のことながら、周辺の住民の方々のご意見も含めてどういう施設をつくっていくかと、これが第2段階として当然必要な作業になってまいりますので、ご意見として、今回ご提案をいただければ、私どもとしても、それを踏まえてしっかりと対応していきたいと思います。

以上、2点について私のほうから回答します。

【出口委員長】 ありがとうございました。

アイランドシティに関しては、大きなオープンスペースとしてはグリーンベルトが整備されますので、ととろの森というイメージになるかどうかわかりませんけれども、是非、グリーンベルトの整備を通じて、地元の方々が親しめるような自然環境をつくっていただきたいと思います。あのグリーンベルトの中に変な上物はつくる必要性は私は全くないと思っていまして、そういうのはお止めいただいて、是非、自然環境をフルに生かしたグリーンベルトをつくっていただきたいと思います。

どうぞ、伊東委員。

【伊東委員】 出口委員長、これだけのものをまとめられて、ほんとうにお疲れさまで した。また、すばらしいまとめで、私もいろいろ書き込みさせていただきましたけれども、 基本的にすばらしいものができ上がっていると思っておりますので、ご容赦ください。

私は、「洗練されたアジア」を提言した者として一言、「洗練されたアジア」について、 どういう意味づけを考えたか、一言ご説明を申し上げようと思います。

今のお話でもないですけれども、やはり現実にまちをつくるということは、一種のファンタジーの世界ではなく、ファンタジーがどのように人間の世界に合理的に落とし込まれて、それが現実の人間の社会として機能するかじゃないかと思います。その意味で、「洗練されたアジア」には二つの意味を込めました。

一つは、英語に翻訳されたときに二つの言葉があるんですけれども、一つはスマートという言葉であります。それは、先ほど委員長もおっしゃったように、スマートコミュニティということで、合理的であると。人間が無駄な消費をせず合理的に、しかも安全に生きていく。そのことに対して最先端テクノロジーによって非常に合理的に、密度の高い街をつくっていく。その意味で、例えば、先ほどのBRTを始めとする効率的なテクノロジーや、さまざまなエコロジーにおける先端産業は、これから人間の叡智を最も発揮させなければいけないものであると思います。

かつて愛知万博の策定委員をやっていたときに、「ビョンド・ザ・デベロップメント―開発の後で」という、乱開発の後に何を学んで、どういうふうに人類がこれを解決していくかをテーマにしたんですが、それが今現実のまちとしてここで実現できるならば、世界への大きな提言になると思っています。たとえ、今言われたように埋立地であっても、私たち人間の叡智は、世界に貢献するサンプルをつくるということをその負荷として考えれば、そのような世界を実現するためのいわゆる先行事例として世界に貢献できるのではないかと。その意味を込めてスマートとしております。

加えて、今、スマートグリッドという節電の方法などあります。日本中が節電、節電と言いながら、その節電は何のためにやっているかわからない。しかし、例えば、今、世界のテクノロジーでは、スマートメーターというより詳細な方法で、より効率的な配分方式で産業効率を落とさず、電力消費の合理性を突き詰めていく方法も考えられています。そのようなものをいち早く摂取して、この島で人類の生活に貢献できるというテクノロジーを実現するという意味もスマートという言葉に込めました。

もう一つは、やはりソフィスティケイテッドという意味であります。「洗練されたアジア」はソフィスティケイテッドだと、その洗練されるとはどういうことなのか、ソフィスティケイトされるとはどういうことなのかというと価値の創造であります。

つまり、洗練されるということは、ある価値を究極に体現するということでありますから、その価値に近づいていくことが洗練されるということです。これが今までは、西洋型社会の中での価値の洗練でした。現在の多文化主義の時代において、アジアの発言権が増すときに、例えばアジアが勝つとか、西洋が勝つというのではなくて、どちらとも違うバリューの創造をしていく、自然に即した価値観というようなものを求めていくべきではないか。そして、その価値の創造につながることが、例えば、先ほどお話ししたコンベンションセンターや新しいメディアセンター、そして自然公園における共生ということであると。それらを提案できれば、この地域が福岡だけに重要な場所ではなく、アジアにとって重要な場所、世界にとって重要な場所となり得るのではないかと思うのであります。

この島のスケールが、世界ということを引用するには、それほど大きくないと思われがちですけれども、先行事例をつくることで世界の価値を変える、また新しい人間生活の価値を変える、そのような洗練された価値、考え方が従来アジアには存在していて、だからこそ、先ほどのトトロの森の話ではありませんけれども、私たちはそれを現実社会に落とし込む責任を今ここに持っているんだと思い、洗練されたアジアと提案させていただいた次第です。

【出口委員長】 大変力強いお言葉で説明をいただきました。どうもありがとうございます。是非、今のお言葉を議事録に残していただき、私どももまた引き続き勉強させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

どうぞ増山委員。

【増山委員】 出口委員長、ほんとうにすばらしい提言をまとめていただきまして、どうもありがとうございます。

事前に拝見しておりますし、特に異論があるということではないんですけれど、委員長がおっしゃられた4点のうちの2点ほどについて。今の「洗練されたアジア」ですけれども、委員長から最初にご説明を伺って、今、伊東委員からもお話を伺って、結構好きな言葉になったかなと感じました。非常にすばらしい統一テーマ、全体テーマではないかなと思いました。

それから、財源のところが私が最初から一番気になっている部分でございまして、やは り費用対便益みたいなところをどう考えていくか、採算性はどうかでございます。本日は、 18ページで積極的に公共投資も行う必要があると書いていただいていて、これはこれで いいと思うんです。 それは9ページで、まさにこれも出口委員長が最初にご説明されたところですけれども、まちづくりの中でこのアイランドシティの位置づけ――この場所が福岡の発展にどう役立っていくかというあたりを明確にしていくということに加えまして、これも9ページの上のほうに書いていただいているんですが、その位置づけを市民とも共有していき、市民の納得感があることが前提なのかなと思っておりまして、書きぶりはこれで結構だと思っております。

以上でございます。

【出口委員長】 ありがとうございます。

今の意見について、やはり投資効果を検証しながら持続的にまちづくりを行っていくことの重要性は私も感じておりまして、19ページの上から3行目に、先ほど私が読み上げましたが、「投資効果を定期的に検証し、課題がある場合は適宜改善していく仕組みの導入も併せて」と入れておりまして、ここはかなり重要なところですので、是非、行政、市役所の方々も念頭に置いていただきたいと思います。

ありがとうございました。

ほかに何かご意見等ございますか。どうぞ、森委員。

【森委員】 出口委員長はじめ、各委員の皆さん方、ほんとうにありがとうございました。とにかく、いろいろ示唆に富んだお言葉をいただきましたので、これから私たちがそれを生かす立場になったなと強く思っております。

一つだけ質問です。例えば、17ページの「まち」という言葉ですが、平仮名の「まち」と漢字の「街」は使い分けされているように感じます。そこをご説明いただければありがたいなと。

それから、このフォーラム機会を与えていただきありがとうございます。始まるまではまさか自分が大きく変わるとは思いませんでした。大庭委員のご配慮でマスコミに出させていただいたり、あるいはツール・ド・フクオカにも出させていただき、アイランドシティを語ったり、思いもかけない波及がありました。さらに昨日、クリエイテイブビジネスについて、福岡ビジネス創造センターで、国際CM大会の金熊賞を受賞したお2人からお話を伺って、東京・大阪に負けない、福岡のいわゆる基盤、地盤があるという力強いお話を承りました。また、エネルギー面では洋上での新しい環境エネルギーの創造ということで、今、私どもタワーにNHKさんが「サイエンスアイ」の撮影で入っていただいたり、ほんとうに、半年でありましたけれども、皆さんの支え、市のサポートで事業の広がりを

感じて、非常にありがたいなと思っています。これからは僕らがどう動いていくかにかかってきたなとも強く思いました。

ほんとうに長くもあり短くもありでしたがお世話になりました。 ありがとうございました。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。このご提言を地元の委員の方々もご 支援いただけるというご意見をいただいたと思っております。

それから、1点質問がありましたけれども、平仮名の「まち」と漢字の「街」を使い分けているかということについて。実は私、都市計画の分野なものですから、結構こだわりがありまして、一般にまちづくりというときには、通常は平仮名を使います。漢字でも、市街地の「街」はどちらかというと、にぎわいを持つような商店街など、にぎわいをもたらすようなまちの場合は「街」を使います。「町」という字は、例えば町並みなんていうときは「町」に「並ぶ」と書きますが、「町」はどちらかというと歴史的な町並みを指すんですね。

ですので、今回は、一般的な意味の場合は平仮名の「まち」を使い、にぎわっているようなイメージのときには「街」という字を使っております。あまり深い意味はないと思いますので、読み過ごしていただいても結構でございます。(笑)ありがとうございました。 ほかに何かございますか。どうぞ、土屋委員。

【土屋委員】 1点だけ、ちょっと追加してはどうかなというものを発見いたしましたので、申し上げます。14ページ、効果的な公共投資による都市の建設を積極的な誘導ということですが、これは公共投資になるのかどうかわかりませんが、大学とか教育機関の問題で、この短期的な具体的方策の中に中高は書いてあるんですけれども、高等教育のほうも挙げておいたほうがと思います。

平山委員さんからですか、日中韓合同でつくったらどうかみたいな話もありましたし、アジアをキーワードに高等教育のあり方を。今、福岡の場合は留学生が大変増えていて、都市圏で5,400人ぐらい今いるそうなんで、これが毎年1,000人ぐらいの感じで増えているということです。都市に非常に魅力を感じているということだと思います。アンケート調査しますと、やはり住みやすい、物価が安い、人が優しい、そういうことですけれども、できればその後の経済的なつながりをつくっていきたいわけです。

やはりここで起業できる、あるいはビジネスとして参加できるといったチャンスが、この土地であれば相当広がってくるなと。我々経済界も課題ですけれども、そのときに、ア

ジアの人材育成の中心の場となり、求心力があって、人が集まってきて、そこと経済界が つながっているというような構図もあり得るなと今ちょっと思っています。ですから、ここがいいのかどうかは全然わかりませんけれども、可能性として、ここがアジアのセンター、人的交流、あるいは学術・文化の交流ということであれば、大学的な高等教育のコアを持つというのは大きな戦略かもしれないと思いましたので、言葉として一つ入れていた だければいいんじゃないかなと思った次第です。

【出口委員長】 ありがとうございます。以前、平山委員からも大学を是非誘致してはというご意見をいただいておりました。事務局にも、私からご相談を持ちかけたんですが、既存の大学をこちらに誘致してくるのは、ハードルが高いということなので、具体的な方策には挙げませんでした。民間の人材育成に対しての要求が非常に高く、その受け皿として新しいタイプの大学、あるいは社会人のリカレント教育、再教育なども含めた機能を持った大学の可能性を残しておいた方がいい、やはり要るのではないかというご意見を今いただきました。もしよろしければ、ほかに何か今の話に関連したご意見ございますか。

【平山委員】 委員長、6ページに書かれています。未来像Ⅱの「知的活動が集積し」 というところに、一応取り入れて、挙げられてはいるんですけど。

はい、どうぞ。

どうぞ。

【出口委員長】 そうですね。アジアを始めとする海外から人材が集まるとか、教育機関が立地しているまちということが未来像には確かに描かれていますね。ありがとうございます。

これは平山委員さんからのご意見を踏まえて掲げておりますのが、方策には具体的なキーワードとして入れておりませんでしたので、そういうご意見をいただいたということで、例えば、インターナショナル中高等の国際教育機関の設置や大学等の誘致というところにワンフレーズ加えることも考えられますが、いかがでしょうか。加えたほうがよろしいですかね。もしよろしければ、そのように加筆させていただきますが。

【青木委員】 青木と申します。委員長、ご苦労さまでございます。

先ほどの土屋委員のお話と少し関連しておりますけれども、アジアや外国から高校・大学の誘致が難しいということであれば、今おっしゃったのは、大学の誘致というよりも、留学生がこの地域にたくさんいて、アジアからの留学生が8割、9割を占めており、また、これから年々増加していく中で、この留学生の活力、あるいは彼らをどうやって生かして

いくかにおいて、アイランドシティの中にそういう機能をということではないかと思います。大学誘致イコール誘致ではない、おっしゃっていることはそうじゃないと思うんです よね。

もちろん、それができれば一番理想でしょうけれども、そういう機能を持つ場所があれば、留学生の皆さんの知恵とか力、あるいは彼らの能力を生かすような交流の場、あるいはベンチャーを起こすための何かそういうチャンスを与えられるような研究、イノベーションセンターみたいなもの、そういう意味のご発言ではなかったのかなと思いますし、私どももそういうことが非常に今求められているように思います。

留学生は、今から日本の経済を活性化させていくため、あるいはグローバル化の中で日本人が生き抜いていくためにも、大きな示唆を与えてくれる存在として大事にしていかなければいけません。そうであれば、彼らがここで学ぶと同時に、学んだものをここで生かしていく場を確立することが大事じゃないかということをおっしゃられたんだと思いますし、私どももそう思いますので、その機能の確立をどうとらえていくかをぜひお願いしたいと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。

もし何か関連したご意見等があれば。どうぞ、平山委員。

【平山委員】 平山でございます。

まちづくりとあわせて、私は人づくりが大事だろうということで提案申し上げたんですけれども、こういう国際交流の場というのは、短期、中期、長期の中で、長期的に例えばリベラル・アーツみたいなものをして、その中からまたさらに上のほうに進むというのもあるでしょうし、もう一つは、今、東区にも国際交流会館がございますけれども、それをブラッシュアップして、今おっしゃったように、そういう人たちが交流できる施設にしていくのも短期的には早いのかなと思います。

これからは、中国は既に人口がピークに来ていますし、もうインドの時代と言われています。せんだってのフォーラムでも、世界の共通語は今英語ですけれども、英語をベースにして、中国語、韓国語とか、そういうもので話さないと、国際舞台でのビジネスはなかなか難しくなっていますので、そういうところをはぐくんでいく場として、この福岡が一番ふさわしいのではないかと私はご提案申し上げた次第です。補足説明です。

【出口委員長】 ありがとうございます。

どうぞ、海老井委員。

【海老井委員】 私もちょっと以前申し上げたことがあると思うんですけれども、ほんとうにこれから外国語の習得が非常に大事になってきます。それも、単に机上の勉強ではなかなか習得できないので、実際に言語を使って海外の人と一緒に生活しながら学ぶようなものをと。例えば、韓国には英語ビレッジというものがありまして、長期間、あるいはある程度まとまった期間、英語だけで生活しながら勉強するという場所がありますけれども、そういったものがアイランドシティあたりにできたらいいなと。

これから、小学校から英語の授業が始まってきますし、各学校も、これからそれに力を入れていくと思いますので、ぜひそういった場所が必要になってくると思います。照葉小中一貫校は先進的学習の場として、また、福岡女子大にも留学生がたくさんいますし、ほかの大学にもいますので、そういった留学生、あるいはALTさんなどを活用して、日常生活を通して子どもたちが英語を学べるような施設が照葉のまちにあったらいいと思っております。

それから、ついでによろしいですか。

【出口委員長】 はい、どうぞ。

【海老井委員】 前に、資料として今日の分をいただいたときよりも、今日また修正されて、ご説明いただいて、一段とイメージが明確になったといいますか。アイランドシティのこれからの実現に向けて、どういうふうにしていくかの方策も非常に段階を追ってわかりやすくて、立派な提言ができたんじゃないかなと思っております。ほんとうにありがとうございました。

ただ、この提言を現実的に実現していくというと、やはりいろいろと難しい問題がたく さんあるかと思います。提言後のお話で申し訳ありませんが、アイランドシティを見ます と、写真で見ても、実際に行ってもですが、非常に「洗練されたアジア」を実現したよう な区画があるかと思えば、ちょっと離れると広大な空き地になっています。先日の新聞に、 セイタカアワダチソウが生い茂っているといった表現がありましたけれども、やはり、あ の広大な土色の何もない空き地を見るとちょっと不安にかられます。

事業が実際に着手されて進んでいくまでには、時間がかかると思いますので、その間、 あの広大な土色の景色をちょっと和らげていただきたいと思うんです。例えばクローバー が生い茂る原っぱでもいいし、市民農園にするとか、あるいは造園業者さんに管理しても らったり、知恵を出していただくとかですね。あれを見ると、住んでいる方もですが、い ろいろ夢は描いたけれどもとなります。ちょっと気分を和らげていただきたいなと要望し ておきたいと思います。

【出口委員長】 今、2点ご発言ございまして、2点目のほうは市に対しての要望ということでよろしいですか、この提言書に直接かかわるというよりはですね。まず、行政の方でどのような取り組みをしているのか、2点目に関してご説明いただきたいと思います。

【港湾局(松本局長)】 2点目の分の、広大な土地がそのままになって土が積んであると。あれはまだ造成中の土地でございますので、地盤を安定化させるために土を載せとかなければいけないということで載せているものでございます。まだそこを活用してというか、例えば農園ではないですけれども、そういった活用は非常に難しいです。なかなかそれを見ばえよくするというのが、どの程度できるのかは今後検討したいとは思いますが、そういう状況でございます。

【海老井委員】 活用はできないと思うんですが、放置されているような印象があると よくないなと思いまして。できるだけ、活用されるまでの間、活用が決まったらすぐ利用 しやすく簡単に組みかえられるようにですね。その間、少し見ばえをよくしていただきた いと思います。

【青木委員】 そうですね。クローバーの種をまくんだったら、すぐ芽が出て、ちょっと草原みたいに見えるから、イメージがよくなるとおっしゃっているんでしょう。

【伊東委員】 植物が難しかったら、何かそれこそ、住民の方々と一緒に、子供たちが ナスカの地上絵みたいなことをすれば、空から見えていいんじゃないですか。

【出口委員長】 アートとして。

【伊東委員】 あるんですか。

【出口委員長】 いや、わかりませんけれども、アート化すると。

どうぞ、今の関連で。

【村田委員】 実際に、今おっしゃった地域の地盤改良をしている土地じゃなくて、正直なところ地盤改良終了済みの土地でも広大な空き地なんですよ。だから、そういうところでどうすればいいかというお話もあると思います。実際、住民などの取り組みで、マリーナコートという場所では、今はもうマンションが建ってしまったんですけれども、建つ前に広大な菜の花畑をつくって、そういうふうなことをやってみたり、その場所で畑をつくって、照葉小中学校の生徒さんがそこで芋をつくったり、セキスイが買ってくれたような場所に関しては、そういうことを少しやっているところだと思います。

実際、ただ、こども病院の北側のほうの土地や、いわゆるセンター地区の土地など、も

う地盤改良が終わっているんだけれども、放置されている場所は実際にあるはあると思いますね。

【出口委員長】 そういったようなアイデアや過去に取り組んだ事例もあるので、5 工 区以外の、例えば、こども病院の建設予定地などの西側の土地が空き地のまま放置されて いるイメージもあるということで、そちらについてのご発言でした。よろしいですか、行 政のほうは何かコメントございますか。

【港湾局(松本局長)】 おっしゃったように、5工区の部分は、そういうことでまだほんとうに造成中の部分が、どうしようもない部分があるんですが、おっしゃったように、博多港開発工区といいますか、その部分については、そういったいろいろな工夫をしていく余地がありますので検討していきたいと思います。

【出口委員長】 ということでよろしいですか、海老井委員。

【海老井委員】 はい。

【出口委員長】 では、海老井委員からの1点目のご発言にあります英語教育などを早期から取り組むような教育施設が必要ではないのかという点について、逆に私からお聞きしたいのですが、県としてはそういった政策を既に進めようとされているのでしょうか。教育というのは、市だけではなく、県の非常に大きな役割だと私は思うのですが、取り組みをされているのかどうか。もし、そういったものをつくるとしたら、アイランドに県がつくる可能性があるのかないのか、その辺も含めてご発言いただきたいと思います。

【海老井委員】 県も、英語に限らず、外国語をそういった実地で学べるようなことを 事業として取り組もうとしております。ただ、今ある施設をいろいろと利用する予定です けれども、それでは足りなくなるかもしれません。そういったときに、市のほうも同じよ うな課題になると思いますので、その時点でまた考えられることがあるんじゃないかと思 っています。

【出口委員長】 ありがとうございます。可能性のニュアンスを含めてご発言をいただいたととらえさせていただきます。

話は元に戻りますけれども、土屋委員のご発言に始まりまして、いわゆる国際的な人材育成を担う機関、あるいは留学生などの学習滞在支援の機能といったものが、アイランドにも、まちづくりだけではなく、人づくりの目玉として必要ではないか。その点をこの具体的な方策の中にも明記されてはどうかという強いご意見があったと受けとめております。もしよろしければ、今の複数の委員の方々のご発言も踏まえまして、新たに一つ具体的

な方策を起こす方向で、「国際的な人材育成を担う大学や学習滞在支援機能の設置」といったことを一文増やすことを考えたいと思います。この点について何か行政でございますか。 関連する課題、あるいは関連するような事業が、今もしありましたらご発言をお願いしたいと思いますが、現実的にいかがでしょうか。

【副市長(山崎)】 むしろご提言いただければ、それを踏まえて我々、髙島市長のもとで考えていくという流れのほうがよろしいんじゃないかなと思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。今、山崎副市長からご発言をいただきまして、 行政でも、この点を提言の中に含めることによってご検討いただけるということですので、 今のような一文を具体的な方策の中に加筆させていただきます。よろしいですか。

関連で滝本委員。それから、小俣委員のほうへお願いしたいと思います。

【滝本委員】 「洗練されたアジア」ということで、アジアを標榜するからには、このまちに外国の高度人材、あるいは富裕層の方が住むことを前提にしてイメージしているのかどうかが結構大きいと思うんですね。やはり福岡が国際都市になっていくということであれば、圧倒的に外国人のそういった高度人材が不足しているわけで、そういったことを呼び込むという政策をとるのかとらないのか。それから、アイランドシティをそういった人材の居住区として考えることもあり得るのかどうかですね。それによって、まちのソフト面での設計にもかなり影響が出てくるのではないかなと思うんですね。単なる交流の場だとか、そういった話だけじゃなく、ほんとうに経済社会の中にそういった外国の高度人材を組み込もうとするのかどうかも関連すると思います。

【出口委員長】 ありがとうございます。その点は私が提言書をお渡しするときに市長にご確認したいと思います。市長がおっしゃっているアジアのリーダー都市ということの意味ですね。要するに、観光客などを呼び込むという意味にとどまるのか、あるいはもっと積極的に中国やアジアの方々の居住を進めていくような意味としてとらえるのか。私は後者の方だと思い、「洗練されたアジア」をテーマに打ち出しておりますので、その点はまた提言書をお渡しするときに強調しておきたいと思います。ありがとうございます。

今の関連ですか。では、甲斐委員どうぞ。

【甲斐委員】 私、「洗練されたアジア」を非常にいいなと思いながら、反面、洗練されたアジアだけでいいのかなという思いもありました。喧騒のアジア、にぎわいのあるアジアがどこかに入らなければ、そしてそうしたアジアの人材をどう取り込むのというのが必要だろうなと思いました。しかし3頁の未来像の中に「アジアの成長・活力を取り込み、

アジア・世界とつながる拠点」とありますので、まちづくりの理念として「洗練されたアジア」という、語彙はこれで良いと思いました。私はどこに行っても喧騒さがものすごく好きです。東京が好きなのも、アジアが好きなのも喧騒さがあるからです。だから、おしゃれなまち、にぎわいのあるまち、喧騒のあるまち、アジアの活力、それは「洗練されたアジア」の中にに当然入っているものだと考えております。

【出口委員長】 どうもありがとうございます。「洗練されたアジア」の意味を補強していただきました。ありがとうございます。

小俣委員どうぞ。お待たせいたしました。

【小俣委員】 提言書の戦略ではないかもしれませんが、いよいよ具体的なアクションです。広大な土地がまだあいているわけで、本社機能をこのアイランドシティに移転するのを最重点、直近のアクションにしたいというようなことがあったらどうかと。言い古された言葉で「支店経済」とありますけれども、支店は本社の意向で、上半期でもうやめだ、もうそんなのはいいということですぐに撤退します。本社機能を全部移転していただくのが一番いいんですが、一部でも移転していただくということは、ちょうど今、時期的にも危機管理的にもいいことであるし、アイランドはぴったりなだと思いますので、それをぜひ。戦略にならないかもしれません、戦術かもしれませんが、よろしくお願いします。

【出口委員長】 ありがとうございます。行政のほうから今の点に関していかがでしょうか。企業誘致を進めていらっしゃるところかと思いますが。あるいは、都心部のまちづくりの戦略と競合するかもしれませんが。何かございますか。支店機能だけでなく、むしろ本社機能を積極的に誘致していくべきではないのかと。そのための立地環境を整えていかないといけないかと思いますが。どうぞ。

【港湾局(松本局長)】 当然、企業誘致をどんどん積極的に我々は取り組んでいきます。 その意味で、企業が本社機能を持って福岡に来ていただくこと、これは税制を含めて、財源を含めて非常に効果がございまして、我々目指していますので、そういった表現がご提言の中に入ることについて、我々異存があるものではございません。ただ、非常に難しいことにはなろうかと思いますが、目指していく方向性ではあると思います。

【出口委員長】 今のはご意見として受けとめさせていただければと思いますけれども、 よろしいですか。土屋委員のほうから、そのための条件整備みたいなもので、もしご意見 があればお願いします。はい、どうぞ。

【土屋委員】 13ページに含まれるのかなと思いながら見ていたんですが。これは土

地利用の促進という切り口で書いてあるんですけれども、特に、最後に短期的なものとして特区制度の活用を視野に入れた規制緩和とありますが、法人税あるいは住民税の優遇措置でアジアは引っ張り合いをしています。先日もベトナムから誘致団が来まして、業種とエリアで柔軟な税制を設けて、ほんとうに来てほしい業種だったら、しばらく税金をかけないといったインセンティブをつくったりしています。もし国から移譲してもらえるなら、この特区を生かしてこのエリアに来てほしい業種に対してそういった税制、そういったことも可能かなと思いますので、ここの記載をもう少し、そういったものもあり得るというような表現にしていただければいいんではないかという気がいたします。

【出口委員長】 そうすると、具体的な方策には難しいかもしれませんが、考え方を明記しておくという意味では、13ページの戦略Iの文章の中にそういった点を加えておくようにいたしましょうか。本社機能を積極的に誘致するというニュアンスをこの文章の中に加えさせていただくということでよろしいですか。上の前段の文章か、ひし形の文章の中のいずれか。今とっさにいいアイデアが浮かばないのですが、その辺は私に任せていただいてよろしいですか。

【貫委員】 関連で。

【出口委員長】 はい、どうぞ。貫委員。

【貫委員】 今回、大変すばらしい提言をまとめていただきまして、ほんとうにありがとうございました。その中で、財源が大変厳しい、民の力の導入がキーポイントであるということで、経済同友会といたしまして大変大きな課題をいただいたような気がいたしております。ほんとうに民の力を生かすためにどういうことすべきかだけで今後一つ提言をつくらなければならないんじゃないかなと思っているところでございます。

その中で大きくポイントになるのは国際化です。今いろいろな国際機能を活力としてどう取り込んでいくのか、あるいは海外を含めた本社機能の移転云々という話があっているわけでございますけれども、前回、私もお話し申し上げたんですが、福岡には国際的な事業とか交流にかかわる組織・団体が100以上ありますが、なかなか連携した動きがないので、国際化に関するいろいろな活動、あるいは企業の活動に関する情報がなかなかうまく取り出せない状況があるような気がいたしております。そういった情報の見える化を行う、要するに情報の発受信基地の機能をアイランドシティに置いてはどうかと。

例えば具体的に申し上げますと、現在、アジア太平洋こども会議・イン福岡が25周年を迎えるということで、25年前に来た人はもう40近いと思いますが、2013年に海

外から約1,000人集めて一大同窓会をやります。そのために、映画をつくって、それを 海外各所で展開することも企画しています。こういうものもいろいろな国際関係の方たち が一緒にやればさらに相乗効果がありま。また、アイランドシティでそういう一大プロジェクトをやれば、活性化の一つにもなるんじゃないかなと。ほんとうにもったいない、埋 もれているいろいろなノウハウを生かしていく中で、民間の方は民間の力をどんどんこれ に投入するような、アイデアを生み出していくといいますか、そういうことも大事じゃな いのかなと。

今、グリーンアジア国際戦略総合特区ということで、アイランドシティもスマートコミュニティ創造事業ということでございますけれども、この中で民がどんな形で参画できるかを含めた検討もしていかなければいけないのではと。いずれにしても、経済同友会、経済界は今回の提言で少し課題をいただいたなと思っています。国際化にもう少し取り組んで、特に情報という面で取り込んでいただければと。これは意見というだけで、今後生かしていきますので、よろしくお願いします。

【出口委員長】 ぜひ経済同友会とも連携しながら国際化を進めていただきたいと思います。応援していただけるというご発言と思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

まだご発言されていな安藤委員とトコ委員からもご発言をお願いしてよろしいですか。 では、レディーファーストでよろしいですか。トコ委員。

【トコ委員】 出口委員長お疲れさまでした。そして、委員の皆さんもほんとうにお疲れさまでした。私は最初こちらの会議に伺ったときに、アイランドシティをちょっと薄目で見るような気持ちだったんですけれども、このフォーラムを通じてすごく興味もわいたし、何度も行きましたし、やはりアイランドシティに愛が生まれました。今まであの空き地は殺伐とした茶色い土地だと思っていたんですけれども、今日の提言を見て、今、あの空き地には夢と未来が詰まっているんだなとしみじみと思っております。

今日のこの提言は、結構勇気を持って踏み込んでいると思います。でも、何となく具体的なことも見えてきたので、提案してくださっている公・民・学の民の一人として、経済同友会のような組織ではございませんけれども、市民いろいろな人がその民の一人としてかかわって大きな動きになったらいいなと思います。そこで、出口委員長に一つお願いがあるんですが、高島市長はなかなかアピールするのが上手な方でいらっしゃるので、この提言を高島市長にお渡しするときに、アイランドシティに明るい関心を持っていただける

ような発表や発言をこれからしていただきたいとぜひよろしくお伝えください。そして、 「洗練されたアジア」という言葉がひとり歩きするぐらいの場面に立ち会うことができた らなと希望いたしております。ありがとうございました。

【出口委員長】 どうもありがとうございました。大変勇気の出るご意見、ありがとう ございます。

続きまして安藤委員のほうからもお願いします。

【安藤委員】 ほんとうにすばらしい提言書ができました。私は地元を管轄する署長として参加させていただきました。本音を言いますと、委員の招致を受けて、このアイランドシティの犯罪情勢なり治安情勢を説明するので十分かなと思っておりましたけれども、正式に依頼を受けまして第1回から今回まで出席させていただきました。

私は警察という立場で、治安面しか知識も見識もありませんで、発言もほとんどが犯罪 の話あるいは事故の話でしたけれども、皆様方の話を聞きまして、ほんとうに私自身がい い勉強をさせてもらったなというところでありました。

洗練されたアジア、あるいはにぎわい、喧騒のあるという話も出ましたが、こういうことが創造されていくんだろうと思いますが、それが短期か中期か長期かわかりませんが、そういった事業を起こすときには、それに付随する負の部分としてどうしても事件・事故が常についてまいります。つい最近ですけれども、アイランドシティ1号線で死亡事故がありました。東署の管内の東区では今年4件の死亡事故がありまして、初めてじゃないでしょうかね、海の中道大橋のあの事故がありましたけれども、あれ以来事故がありました、また、つい最近も、アイランドシティ中央公園の近くでお年寄りが一方通行を逆行して正面衝突するという事故もありました。地理不案内の方がアイランドシティを訪れますから、やはり行き先指標を探して、標識、表示を見落とす中での事故もありまして、早速事故の現場を見に行かさせていただき、早急に標識を見直したり設置したりということをやっております。

最初に申しましたが、いずれにしても、治安は最善の福祉であるという考え方で、ぜひ その考え方を持って事業を進めてもらいたいなと思います。私からのお願いでありますけ れども、以上でございます。

【出口委員長】 ありがとうございます。未来像や方針の中にもそういったことを大分 含ませていただいておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

終了時間の方も近づいてまいりましたけれども、今日、特に4点ご発言いただきたいと

申し上げましたが、特に財源のところ、9ページ目の方針 I の中に明記しております。これについては何か特にご意見ございませんでしょうか。ご確認いただいたということでよろしいでしょうか。それではご確認いただいたということで。

それでは、今日が最後ですけれども、何かまたご発言があれば。滝本委員、どうぞ。

【滝本委員】 1点だけ。メディアの発信という言葉があるんですけれども、その1が 戦略Ⅱの公共投資のところに来ているんですが、むしろブランド戦略というころまでしっ かりした体制で戦略Ⅳのところに位置づけたほうが、おさまりがいいのかなという感じが します。

それから、情報をただ一方的に発信するというだけではなかなか伝わらなくて、同調・ 共感させていくことも含めて、情報運用という言葉があるそうですけれども、むしろブラ ンド戦略と言ったほうがいいのかもしれませんが、そこを戦略IVに位置づけたらどうかと 思うんですが、いかがでしょうか。

【出口委員長】 戦略IVのどの辺ですか。情報発信だけでなくて、何か情報を収集するという意味ですか。

【滝本委員】 戦略Ⅱのところに「メディア・デジタルコンテンツ等の国際情報受発信、 制作」と書いてあるんですが。ああ、そうか、こういう施設をつくるということですね。

【出口委員長】 そうですね。むしろ、これは公共主導でつくっていただくべきではないかということで挙げているんですよね。それをさらに引き続き利活用していくのは多分戦略IVに入ってくるかと思うんですが。

【滝本委員】 それはわかりました。IVのところにも、これだけの大プロジェクトで、 アジアに向けてしっかりしたメッセージを出していこうということなので、もう少しブラ ンド戦略的なものも入れたほうが。

【出口委員長】 情報発信してブランド化を進めるということですか。

【滝本委員】 ええ。情報発信と言うと、ただコンテンツをつくって情報を流していくだけというイメージなんですね。相手がどう受けとめるのか、どういう反応があるのか、それから先方から共感や同調を呼び込むためにはどういうことが補足的に必要なのか等々の付随した活動も必要なのかなと思うんですけれども。

【出口委員長】 それは、滝本委員が前回言われたエリアマネジメントが担う機能ということになるのでしょうか。それとも公共サイドでやることになるのですか。

【滝本委員】 いや、公共サイドだけではなくて全体でという。そうですね、エリアマ

ネジメントのところに加えるような形で。

【出口委員長】 少しそういった点を加えるようにしましょうか。情報発信を進め、まちのブランド化を進めると。

【滝本委員】 そうですね。

【出口委員長】 ありがとうございます。確かに情報発信が方策には入っているのですが、こちらの文章に入っておりませんので。では、文章のほうにそれを補強するような形で、いかがでしょう。よろしいですか。

【滝本委員】 はい。

【出口委員長】 ほかに何か。もう最後になると思いますが、ご発言があれば、言い残していることがあれば、お願いしたいと思いますが、よろしいですか。たくさんありますか。よろしいですか。どうぞ甲斐委員。

【甲斐委員】 済みません、最後になりまして。

【出口委員長】では、手短にお願いします。

【甲斐委員】 前回欠席しましたものですからありがとうございます。提言書の取り纏め非常に良く取りまとめられており、出口委員長と事務局の皆さんのご努力に先ず感謝申し上げます。

それと、行政の皆様に注文とお願いです。今後それぞれ具体的な項目について検討されて行くのだろうと思います。財政と議会という難しい問題があると思いますが、ぜひ勇気と自信を持って、アイランドシティを前に進めてもらいたいなと思います。

【出口委員長】 その辺の意思確認というか、行政にこの提言を受けとめていただける ことは、後ほどの副市長さんからのごあいさつの中で多分ご発言いただけると思っており ますので、その中でお願いしたいと思っております。どうもありがとうございます。

また、我々もこの提言をつくった者として、これからもアイランドシティのサポーター 役のような形でお願いします。先ほど同窓会と言われましたけれども、この未来フォーラ ムの同窓会をやってもいいかもしれません。引き続き皆様にまた何かご協力をお願いする かと思いますが、戦略の公・民・学連携の拠点づくりと、その運営などに皆様方にもぜひ 携わっていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

ほかにないようでしたら、よろしいですか。

そうしましたら、本日も大変長時間にわたりまして活発で建設的なご意見をほんとうに ありがとうございます。今、ご提示しました提言書(案)につきまして3点修正がござい ました。

まず、13ページ目の戦略Iに、本社機能を誘致していくといった趣旨の文言を入れておくことが1点目です。2点目は、14ページの短期的な方策に国際的な人材育成を担う大学等の誘致や学習滞在機能の設置といったようなことを入れさせていただきます。それから、17ページの戦略IVに、最後のひし形のところになるかと思いますが、情報発信を進め、まちのブランド化に取り組んでいくといった趣旨の文言を入れることです。この3点の修正を加えたいと思いますが、その修正に関しましては私のほうで責任を持って進めますので、私にご一任いただくということでよろしいでしょうか。(拍手)

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

【出口委員長】 ありがとうございます。

それでは、このアイランドシティ・未来フォーラム提言書「福岡の未来を先導するアイランドシティへ -Future's Initiative and Challenge-」という提言書を、3点の修正点を踏まえた上でご承認いただいたということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

【出口委員長】 ありがとうございます。

髙島市長様には、実は週明けの月曜日、12月5日午後1時に市役所でお会いいたしまして、このフォーラムを代表いたしまして私がお渡しするという段取りを組まれておりますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

【出口委員長】 ありがとうございます。市長も公務でお忙しいようで、時間も限られておりますので、実は私のほうでこのフォーラムの提言書につける文章を考えてみました。よろしければ、それを最後にご確認いただいて、このフォーラムを終わりたいと思っております。よろしいですか。事務局に今日、このフォーラムの開催の直前に私がお渡ししたんですけれども。

よく条例に基づいた諮問を受けた場合には、答申書をつくって市長さんに手渡します。 今回のこのフォーラムはそういった諮問を受けたわけではありませんが、口頭で私があれ これ説明するよりも、文章に整理した形でご説明したほうがいいかと思いまして、こうい ったかがみの文書をつくらせていただきました。

残念ながら読み上げる時間がなさそうです。要は、市長が政策の柱として掲げているア ジアのリーダー都市というコンセプトがございますけれども、それとの関係性を整理いた しております。先ほど私が発言させていただいた内容をここに文章として整理したもので す。ご確認いただきたいと思います。

アジアのリーダー都市、特にその真のリーダーとなるためには、人間も尊敬されないと リーダーになれませんので、やはり都市もアジアから尊敬されるような都市にならないと いけません。尊敬されるという意味は、そこに滞在したい、住んでみたいという魅力を持 った都市にならないといけないということです。既成市街地でそういったモデルをつくり 上げていくのはなかなか難しいかと思いますので、新規開発を進めているアイランドシティが、アジアあるいは広く世界にその先導的な都市のモデルを示していく、それこそが真 のアジアのリーダー都市になっていくことにつながっていくのではないかという主旨をこ こに明記してございます。これを私のほうから髙島市長にご説明申し上げたいと思ってお ります。内容につきましてよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

【出口委員長】 では、これもご確認いただいたということにさせていただきます。概要版もつくっておりますので、これもあわせてお渡しするようにしたいと思います。

ありがとうございます。それでは、この提言書とともに委員の皆様のご意見や思いにつきましても生の声として私のほうからお伝えしまして、提言にある未来像が実現できるよう、しっかりとした取り組みをお願いしてまいりたいと思います。

では、フォーラムの終了に当たりまして山崎副市長様からごあいさつの申し出がございましたので、ごあいさつを願いしたいと思います。

【副市長(山崎)】 副市長の山崎でございます。最後にごあいさつさせていただくに当たりまして、正面の画面をごらんいただきながらお聞きいただければと思います。

第1回開催が7月30日ということで、大変夏の暑いさなかに第1回がスタートいたしましたが、回を重ねまして今回が第6回ということで、本日、出口座長のもと、各委員の皆様方に大変ご努力いただきましてご提言をいただくことに対しまして改めて感謝申し上げる次第でございます。

私ども市役所といたしまして、このご提言を来週、髙島市長にいただきまして、その内容を極力実現すべく頑張ってまいりたいと思いますけれども、それに当たりまして、もう一度私どもとして今回の未来フォーラムに関しましての振り返りをしてみたいと考えております。

一つは、公開による市民の議論をしていただいたということでございます。そして、そ

のもとで「洗練されたアジア」というアイランドシティにとっての大きなテーマ、未来像のご提案をいただいたと受けとめてございます。そして、それを実現するためには福岡市役所のこれまでの仕事のやり方も含めまして、考え方を大きく転換していくことが必要なのではないかというご提言をいただいたものと理解してございます。そして、このアイランドシティ事業、今回、未来フォーラムのご提言をいただきますことが、実は3度目の転機になるということを順次ご説明させていただきたいと思います。

まず、公開による市民の議論という第1点目でございますが、実はこれまでアイランドシティ事業といいますのは市役所の内部だけで議論が進められてきました。市役所がひとりで頑張って仕事をするというスタイルをとってきたわけでございます。実はこのような仕事のやり方に関しましては、既に今年5月にこども病院の移転に関しまして非常に厳しいご批判を私ども市役所は受けてございます。このような反省を踏まえまして、このたびは未来フォーラムという形でアイランドシティ事業の推進を初めて公開による市民の皆様方の議論にゆだねたということでございます。とりわけ、まちづくりエリアだけではなく、みなとづくりエリアまで含めた形で今回のご提言を賜りました。アイランドシティ全体の将来像と具体策について有益なご意見を賜ったことを改めて感謝申し上げる次第でございます。

そして、二つ目でございます。「洗練されたアジア」という大変にすばらしい大テーマを アイランドシティにちょうだいいたしました。これは今後、アジアの大都市が直面してい くさまざまな課題がございますが、このような課題を先導的に展開するフィールドが福岡 市であり、なかんずくアイランドシティである、このようなご提言をいただいたんではな いかと理解してございます。

委員長から最後にございましたが、髙島市長は、人と環境と都市が調和したアジアのリーダー都市を目指す、これを一枚看板にしておりますが、まさに先ほど出口委員長からお言葉がありましたように、アジアの人々からの尊敬をかち得るまちにしていくんだというのが、このアジアのリーダー都市の趣旨であると常々申しております。そして、その目標像が今回ご提示をいただいた「洗練されたアジア」であろうと理解してございます。

洗練されたアジアのリーダー都市を目指すことが福岡市の置かれた歴史的な、あるいは 地理的な使命であり、そのモデルとしてアイランドシティを位置づけてほしいというご提 言になったかと思いますので、このご提案を受けまして、私どもはこれを実現していかな ければいけないということになろうかと思いますが、あわせまして今回のご提言では考え 方の転換を図っていくべきであるというご提案もちょうだいいたしました。これは福岡市 役所にとりましては非常に大きなご提案であると理解をしてございます。

一つは、好循環への転換をしていくということで、選択と集中によって税収増と再投資へという新しい流れを生み出していく、これが重要であるというご提案をいただきました。そして、好循環を生み出すエンジンとしての位置づけをアイランドシティに設けていく。 具体的には特区制度や国・県の税収も活用して効果的な先行投資を行っていくというご提案をいただきました。

特区制度に関しましては、国際総合戦略特区、これが年内にということですから、今月中に国のほうで指定を受けることになりますが、アイランドシティも含めました福岡県、北九州市、福岡市のご提案、グリーンアジア国際総合戦略特区でございますけれども、全国で5カ所の指定でございますが、この12月には3カ所程度と言われております。アイランドシティが全国の3カ所の中に入るかどうか、ただいま、県、北九州も含めまして高島市長が先頭に立って頑張っているところでございまして、請うご期待ということでお待ちいただきたいと思います。

また、国・県の税収も活用するという観点でございますけれども、本日のご提案の中に 市民の税金を活用した効果的な先行投資を行うというご提案がございました。この市民の 税金といいますのは、福岡市の税金だけではございません。アイランドシティの住民の方々 は福岡市民であるとともに福岡県民であり、日本国の国民でございますので、国の税金、 あるいは福岡県の税収も十分にアイランドシティ事業にこれから活用させていただくよう に、私どもも国や福岡県に強くお願いしてまいりたいと考えてございます。

そして、アイランドシティの強みを生かした事業展開を選択と集中のもとで行うという ご提案をいただきました。さらには、民の力を積極的に引き出すということで具体的な手 法までご提示をいただいたわけでございます。

最終回になりまして、ユニバーサルデザインの話、あるいは野鳥公園の話をご説明させていただきましたが、さらにアイランドシティの強みを生かす直近の事業といたしまして、 滝本委員からご紹介いただきましたスマート・ウェルネス・シティ構想を来年2月にアイランドシティのビジネス創造センターで開催させていただきまして、指導者である大学の 先生、あるいは九州全体の自治体の方々にお集まりいただき、アイランドシティで既に設置をされております諸施設、アイランドシティの強みを生かした形で事業展開を図ってまいりたいと考えてございます。 最後、3度目の転機ということでございます。実は、アイランドシティの事業に関しましては、これまで過去に2度ほど大きな事業展開がございました。一つ目は、平成元年でございます。アイランドシティ事業はそろそろ20年近くになるわけでございますけれども、まずスタートの際には、そもそもということで、周辺の自然環境の保全を行うという意味でこの事業を推進することになったわけでございますが、これからは保全から再生へ、あるいは創造へ、この基本的な考え方をしっかりと事業の中で実現していく必要があると考えてございます。このフォーラムでも、何度も人工島という言葉のマイナスイメージが取り上げられましたが、このイメージを払拭していくためにも、福岡市として全力を挙げて保全から再生へ、自然への共生を進めていくべきであると考えております。

2回目の転機は平成16年でございます。この際に第三セクターから市が直接責任を持つ事業形態に一部変更しております。市の5校区、まちづくりエリアの北半分でございますが、これから事業展開を図らなければいけないエリアに関しまして市が直接責任を持つ事業形態に変更いたしました。実はここに至るまでの間、今日も幾つかご意見がございましたが、収支構造、採算性がとれるかどうかという議論に関しましては、全くのブラックボックスの中で事業展開をしておりました。平成16年の段階で初めて市民の皆様方にこの収支構造をオープンにしました。今は市民の皆様方だれでもアイランドシティ事業の収支構造、あるいは採算性に関して市役所から情報を得ることができます。それ以前は、そういう形で仕事は行われておりませんでしたが、16年にこのような形で事業展開をいたしました。したがって、これから長期的な事業の具体的展開を図らなければいけないということで今回、ご提案を受けまして事業手法の多様化、ニーズに応じた多様な土地利用促進策の導入を検討してまいります。

具体的には来週、髙島市長に出口委員長から最終報告をご提出いただきました後、速やかにスピード感を持って事業推進の具体案を取りまとめていく予定としてございます。既に関係者、あるいは関係省庁との調整につきましては精力的に行っているところでございまして、ちょうど12月は市議会もございます。市議会において市民の代表である市議会の議員の皆様方のさまざまなご意見を反映した上で具体案を提示してまいりたいと。具体的には、来年度の予算の中で髙島市長からこのアイランドシティ事業の具体的な方策をご提示いただくという構えになっているというところをご紹介いたしまして、最後に、甲斐委員から叱咤激励があった点に関しましてのご回答とさせていただきたいと思います。

ほんとうに委員の皆様方には、この半年間という大変短い期間でございましたけれども、

精力的な意見の交換をしていただきまして感謝しております。福岡市役所を代表いたしまして改めて御礼を申し上げる次第でございます。どうもありがとうございました。(拍手) 【出口委員長】 山崎副市長、どうもありがとうございました。大変力のこもった、この提言を真っ正面から受けとめていただいて事業を展開していただける、取り組みを進めていただけるとの姿勢を示していただきました。ほんとうにありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、このアイランドシティ・未来フォーラムを終了いたしますが、最後に私のほうからごあいさつとお礼を申し上げたいと思います。

本日も長時間にわたりましてご協議いただき、また、建設的なご意見をほんとうにありがとうございました。このフォーラムは7月に発足いたしましたが、髙島市長からアイランドシティの課題や可能性を検討して、未来像を打ち出していただきたいという依頼を受けまして、このフォーラムが招集されて発足をいたしました。今の時代、これは福岡市に限ったことではないのですが、行政から夢を語れなくなり、未来像を打ち出しにくい時代になってしまいました。今までの成長期ですと、行政、あるいは市長さんが主導して積極的に目指していうものを出せたのだと思いますが、そういうことがなかなか難しい時代になってしまったと思っております。そういうときにこそ、志のある市民の方々が未来像あるいは夢を打ち出して、それを行政にぶつけ、また、行政の背中を押して進めていただくような役割が求められているかと思います。

私もこういった一般公開、あるいはマスコミ公開の場で議論するということは、あまり 経験したことがないのですが、皆様におかれましても、こういう環境のもとでも積極的に ご発言をしていただきまして大変感謝しております。6カ月間にわたる長かかったような 短かったような期間ではございますけれども、ほんとうに長時間さまざまなご意見を出し ていただきましたことに対し、一人一人の委員の方々にお礼を申し上げたいと思います。

また、このフォーラムの運営と、この提言書を取りまとめるに当たってのいろいろな作業を行政の担当者の方にお手伝いをしていただいております。山崎副市長をはじめとする事務局の方々にも改めて私のほうから厚くお礼を申し上げたいと思います。ほんとうにどうもありがとうございました。

それでは、この提言が一つの転機になることを願いまして、このフォーラムを終了させていただきたいと思います。長時間にわたりまして、ほんとうにどうもありがとうございました。(拍手)

では、事務局のほうにバトンタッチいたします。

【事務局(谷口)】 委員の皆さん、ほんとうに5カ月間どうもありがとうございました。 しっかり提言を受けとめて福岡市としてしっかり頑張っていきたいと思います。ほんとう に本日はどうもありがとうございました。

— 了 —